

会津少年自然の家

第1節 概要

会津少年自然の家は、恵まれた自然環境の中で、生き生きとした野外活動と集団宿泊生活を体験することにより、心豊かで心身ともに健全な少年を育成するために、昭和56年4月に開所された社会教育施設である。

少年自然の家は、家庭教育・学校教育・社会教育がもつそれぞれの教育機能を統合し、効果的に補完するための教育施設で、次のような教育目標を掲げ、その達成に努めてきた。「心豊かで、自ら生活を創造し、実践するたくましい福島っ子を育てる。」

- (1) 自然に親しむ活動を通じて、自然の恩恵にふれ、自然を愛する心や敬けんの念を育てる。
- (2) 集団宿泊生活を通じて、友愛心を深め、自律心・協調心を養い、規律を守り、責任を重んじ、進んで奉仕する態度を育てる。
- (3) 野外活動を通じて、たくましい体力と根性を育てる。

1 運営委員会

所長の諮問機関である運営委員会の委員は、次のとおりである。

氏名	委 職 名
岩田 弘	喜多方市子ども会育成会連絡協議会長
木幡 春夫	福島県小学校長会（北会津支部 庶務） （会津若松市立鶴城小学校長）
○酒井 淳	福島県市町村教育委員会連絡協議会常任委員 （会津若松市教育委員会教育長）
照井 蔵人	北会津地区社会教育委員連絡協議会長 （会津若松市社会教育委員）
長谷川四朗	福島県子ども会育成会連合会顧問 （社会福祉法人会津児童園長）
原 市英	福島県中学校長会理事 （会津坂下町立第一中学校長）
坂内 清志	福島県公民館連絡協議会副会長 （会津若松市中央公民館長）
山口 豪志	福島県PTA連合会副会長 （会津若松市連合PTA会長）
◎山口 林助	会津坂下町長
和田 洋子	福島県議会議員

◎印 議長 ○印 副議長

2 昭和63年度重点目標と成果

(1) 集団宿泊生活の充実

- ① 集団宿泊指導者研修会、事前打合せ（実地踏査など）の内容充実に努め、利用団体への指導援助の強化を図った。
- ② 「利用の手引」や指導資料の見直し・開発・整備に努め、利用団体の効果的な活動を促進した。
- ③ 各学校、各種団体の実態や利用のねらいに即して、各種活動のボランティア（専門的指導者など）の活用に努めた。特に、スキー研修の充実に資することができた。

- ④ 県教育行政機関、市町村教育委員会・公民館・小中養護学校等との連携を強化し、利用の促進を図った。

(2) 施設・設備の充実

- ① 野外活動コース（冒険の森）の整備に努めた。
- ② フィールドアスレチックの改修工事5ヶ年計画の第2年次として、さらに、5つのポイントを全面改修した。
- ③ 室内活動・研修の充実にむけて、電子ピアノや大型テレビを備えた。また、教材用として日時計が設置された。
- ④ 環境整備の一環として、施設案内板を改修した。
- ⑤ 自家発電機並びにボイラーの修理を行った。
- ⑥ アルペン用スキー台数の確保に努め、利用者の希望に応えられるようになった。

(3) 広報活動の強化

- ① 特色ある所報（利用者の声・感動体験）の発行や各種広報活動（ちらしの発行）に、積極的に取り組み、利用の促進を図った。
- ② 報道機関をはじめ、市町村広報担当者に、利用促進に関する情報を提供（出前方式を実施）し、PRの効果をあげることができた。

(4) 主催事業の効果的運営

- ① 当施設を利用する学校団体・社会教育関係団体（少年団体等）の指導者を対象に、効果的な利用ができるよう集団宿泊指導者研修会を開催し、指導者としての資質と指導力の向上に努めた。
- ② 豊かな自然の中で、少年をきたえる「自然にいとむ少年のつどい」が効果的に実施することができた。特に、原始生活体験や自然体験を通して、少年期にふさわしい夢や冒険心を育てるなど、開催のねらいが達成された。
なお、スキー実技の向上と交友を深める「少年スキー教室」が、雪不足で開催できなかったことは残念であった。
- ③ 親と子のふれあいを深め、他家族との親睦を目的として開催した「親子キャンプ」「親子白銀のつどい」は、参加者の共感を深くし、効果的に終了できた。
- ④ 唯一の補助事業である「野外活動実技指導者研修会」は、青少年団体活動の指導者の育成という面で、有効に進めることができた。

(5) 施設・設備の保全と事故防止の徹底

- ① 防災組織を確立し、責任体制のもと、日常および月例定期点検を行い、施設・設備の保全に努めた。
- ② 利用団体の事故防止のため、事前研修会や実地踏査で引率指導者に対する指導の徹底を図った。
- ③ 防災訓練にあたっては、防災器具・機器の操作法や避難・消化の訓練を実施した。また、広範囲の活動敷地内の保全と山火事防止のため、野外パトロールを適時行った。
- ④ 関係機関による建物の防火査察、保安点検、環境衛生調査等を依頼し、建物の保全と事故防止に努めた。
- ⑤ 給食委員会を随時開催し、食中毒の防止や食品の衛生